

(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は62人で、前年より13人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し1.4で、前年より0.2ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、21人で前年より11人減少した。新生児死亡率は出生千人に対し0.5で、前年より0.2ポイント低下した。

全国は、乳児死亡率が0.1ポイント低下し1.7、新生児死亡率が前年と同率の0.8であった。（表-21、図-16、図-17）

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280	257
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616	5 054
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4	3.8
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6	4.3
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168	124
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179	2 615
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7	1.8
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6	2.2

		12	17	22	27	30	R元	2	3	
乳児	数	埼玉県	210	137	133	111	89	88	75	62
		全国	3 830	2 958	2 450	1 916	1 748	1 654	1 512	1 399
	率	埼玉県	3.2	2.3	2.2	2.0	1.7	1.8	1.6	1.4
		全国	3.2	2.8	2.3	1.9	1.9	1.9	1.8	1.7
新生児	数	埼玉県	105	61	62	48	41	36	32	21
		全国	2 106	1 510	1 167	902	801	755	704	658
	率	埼玉県	1.6	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7	0.7	0.5
		全国	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

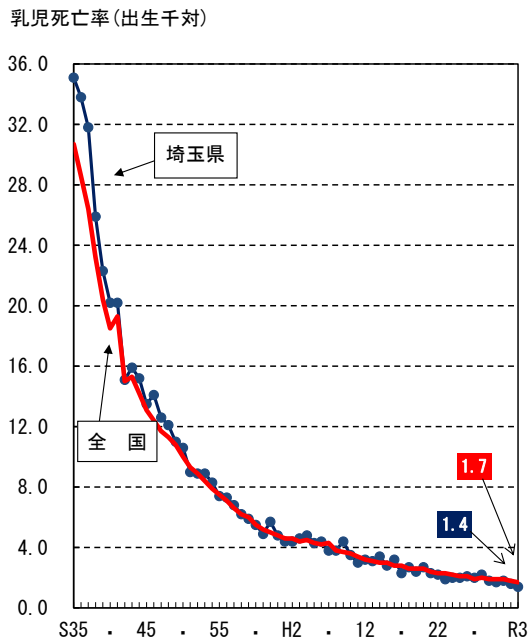
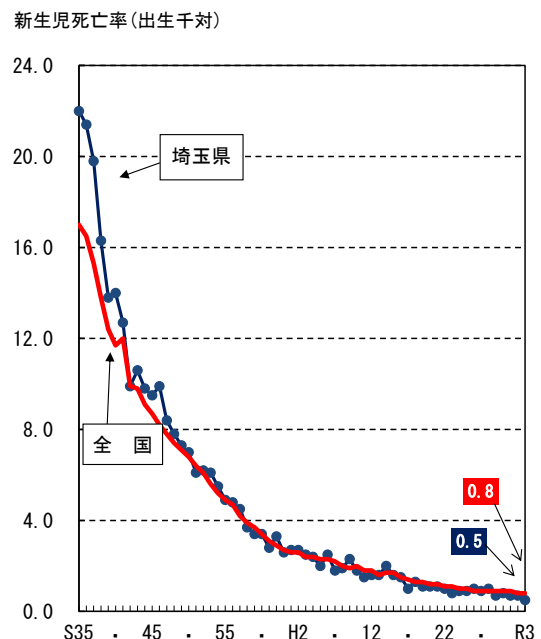


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えて増加していたが、その後急激に減少していき、令和3年は△29,740人で、前年の△23,430人より6,310人拡大した。平成24年に戦後初めて自然減へと転じて以降、年々減少数が拡大している。

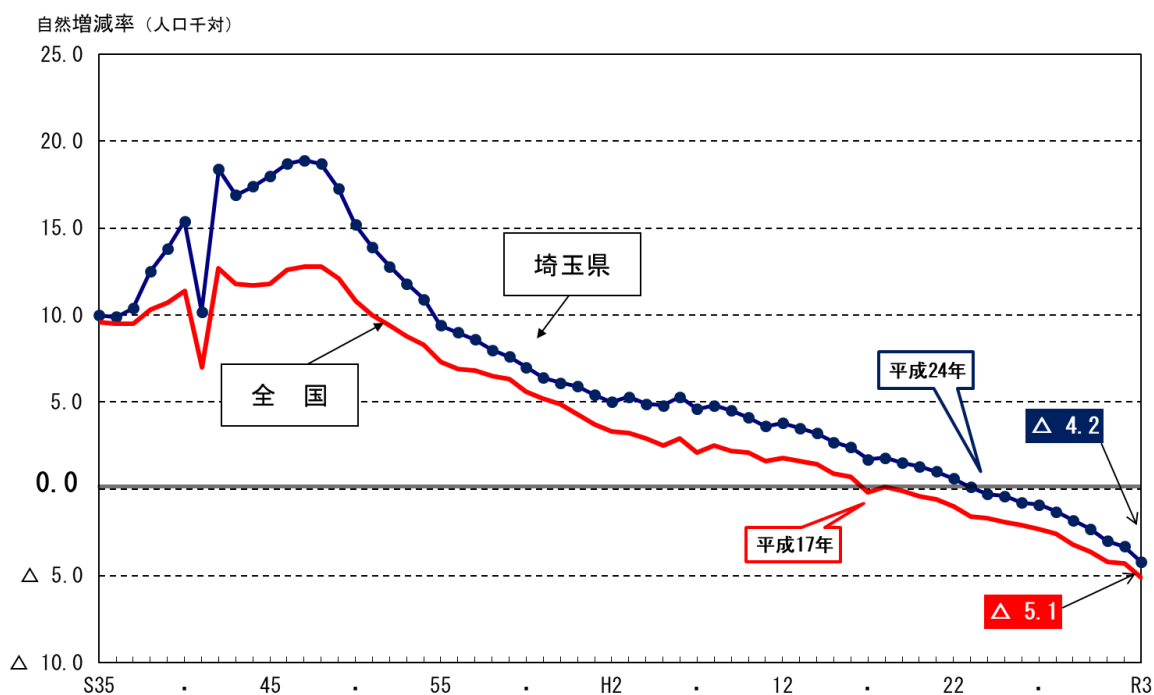
自然増減率は人口千人に対し△4.2であった。（表-22、図-18）

表-22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077	30 951
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280	264 925
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0	4.6
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3	2.1
		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	25 890	11 636	3 950	△ 6 488	△ 16 485	△ 21 239	△ 23 430	△ 29 740
	全国	228 894	△ 21 266	△ 125 709	△ 284 789	△ 444 070	△ 515 854	△ 531 920	△ 628 234
率	埼玉県	3.8	1.7	0.6	△ 0.9	△ 2.3	△ 3.0	△ 3.3	△ 4.2
	全国	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.3	△ 3.6	△ 4.2	△ 4.3	△ 5.1

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（1.7）、戸田市（0.8）、朝霞市（0.4）の順である。

また、低率順では東秩父村（△21.4）、小鹿野町（△16.8）、ときがわ町（△15.2）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より3市（八潮市、吉川市、滑川町）増加して63市町村中60市町村であった。（表－23、図－19）

表－23 市町村別にみた自然増減率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	1.7	22	東松山市	△ 4.5	43	杉戸町	△ 7.5
2	戸田市	0.8	23	ふじみ野市	△ 4.5	44	上里町	△ 7.6
3	朝霞市	0.4	24	宮代町	△ 4.7	45	行田市	△ 8.2
4	八潮市	△ 0.1	25	鴻巣市	△ 5.2	46	毛呂山町	△ 8.8
5	滑川町	△ 1.3	26	狭山市	△ 5.2	47	越生町	△ 9.4
6	さいたま市	△ 1.7	27	入間市	△ 5.4	48	幸手市	△ 9.8
7	吉川市	△ 1.9	28	春日部市	△ 5.4	49	吉見町	△ 10.1
8	志木市	△ 2.2	29	蓮田市	△ 5.6	50	嵐山町	△ 10.1
9	伊奈町	△ 2.4	30	坂戸市	△ 5.7	51	秩父市	△ 10.2
10	越谷市	△ 2.6	31	久喜市	△ 5.7	52	川島町	△ 10.2
11	三郷市	△ 2.8	32	桶川市	△ 6.0	53	寄居町	△ 10.3
12	富士見市	△ 2.9	33	深谷市	△ 6.1	54	鳩山町	△ 12.3
13	新座市	△ 3.3	34	加須市	△ 6.2	55	小川町	△ 12.4
14	草加市	△ 3.6	35	三芳町	△ 6.5	56	横瀬町	△ 12.5
15	白岡市	△ 3.6	36	熊谷市	△ 7.0	57	皆野町	△ 13.8
16	川口市	△ 3.7	37	羽生市	△ 7.0	58	美里町	△ 13.9
17	上尾市	△ 3.9	38	本庄市	△ 7.1	59	長瀨町	△ 14.2
18	鶴ヶ島市	△ 3.9	39	松伏町	△ 7.2	60	神川町	△ 14.9
19	所沢市	△ 4.0	40	日高市	△ 7.3	61	ときがわ町	△ 15.2
20	川越市	△ 4.2	41	飯能市	△ 7.3	62	小鹿野町	△ 16.8
21	蕨市	△ 4.4	42	北本市	△ 7.3	63	東秩父村	△ 21.4

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

(5) 死産

死産数は929胎で、前年より83胎減少した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より10胎減少し437胎、人工死産は前年より73胎減少し492胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し20.0で、前年より0.9ポイント低下した。全国は0.4ポイント低下し19.7であった。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
死 数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 350	1 123	1 012	929
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	22 621	19 454	17 278	16 277
産 率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.5	22.7	20.9	20.0
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.0	22.0	20.1	19.7
(自然) 数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	670	512	447	437
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 864	8 997	8 188	8 082
(自然) 率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.7	10.4	9.2	9.4
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	10.2	9.5	9.8
(人工) 数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	680	611	565	492
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	11 757	10 457	9 090	8 195
(人工) 率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	11.8	12.4	11.7	10.6
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	11.4	11.8	10.6	9.9

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
(埼玉県・全国)

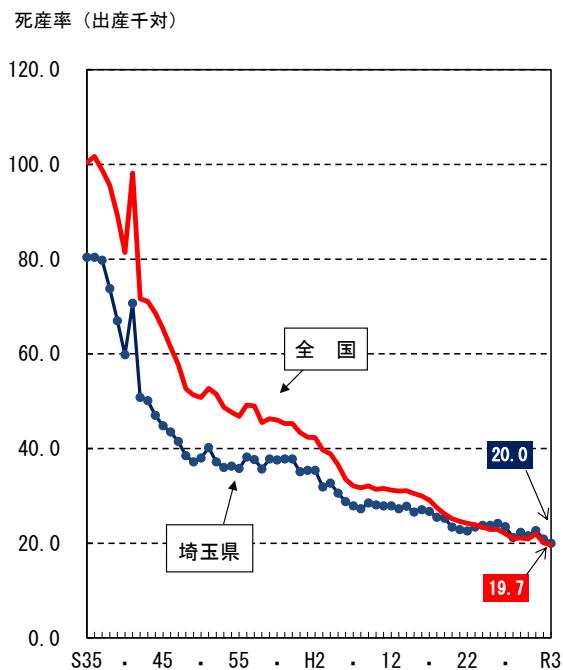
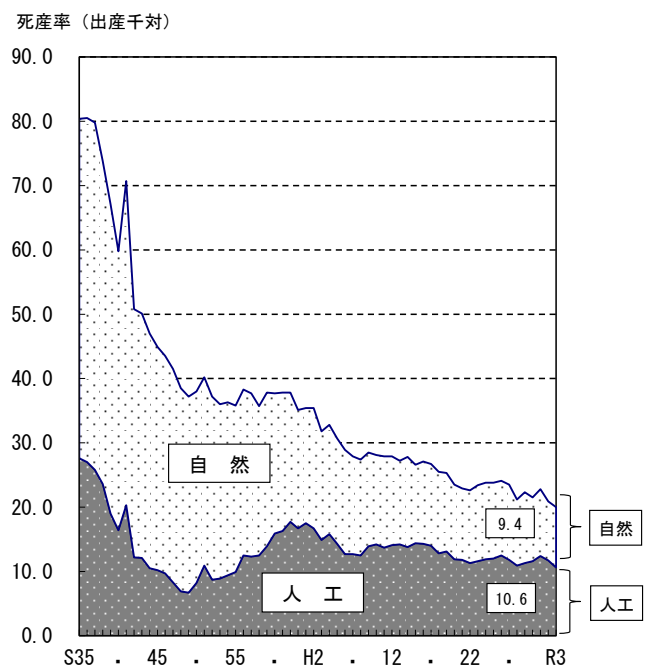


図-21 死産率（自然・人工）の
年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は126人（胎）で、前年より7人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し2.8で、前年と同率であり、全国の3.4を0.6ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。

（表－25、図－22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表－25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
周産期死亡	数	埼玉県 1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	208	151	133	126
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 729	2 955	2 664	2 741
率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	3.7	3.1	2.8	2.8
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.4	3.2	3.4
後期死産	数	埼玉県 1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	175	124	107	110
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 064	2 377	2 112	2 235
率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.1	2.6	2.3	2.4
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	2.7	2.5	2.7
早期新生児死亡	数	埼玉県 605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	33	27	26	16
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	665	578	552	506
率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.6	0.6	0.5	0.4
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6

注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図－22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）

